

経済産業省委託

令和5年度国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業費
(戦略的国際標準化加速事業：産業基盤分野に係る国際標準開発活動)

アクセシブルデザイン（AD）機器の利用促進のための国際標準化
成果報告書

令和6年2月

国立研究開発法人産業技術総合研究所
公益財団法人共用品推進機構

目 次

1. 事業目的・事業概要.....	2
2. 令和5年度の実施体制及び事業概要.....	3
2.1 実施体制.....	3
(1) 研究体制	3
(2) 委員会構成（名簿）	4
2.2 実施スケジュール.....	6
(1) 委員会開催状況	6
(2) 事業期間	7
2.3 事業概要.....	8
3. 事業実施内容.....	10
3.1 TC159/WG2、SC3及びSC5における共通基盤規格.....	10
3.2 TC173におけるデザイン要素規格.....	17
3.3 欧州等連携.....	19
附属資料：.....	20

1. 事業目的・事業概要

少子高齢化により、医療及び福祉機器等（以下「機器」という。）は操作する人自体が高齢者や障害者であることが日常となりつつある。そのような利用者にとっては、機器を利用する時のアクセシビリティ（表示の見やすさ、音の聞き取りやすさなど）の確保だけでなく、その機器が目的に合うアクセシビリティ配慮機器であるか、またはその機器の使い方がどうであるかを事前に把握する、故障やエラーなどを起こさないように適切に管理し、エラー等不測の事態が生じても適切に対応する、さらに使用後は適切な廃棄また返却することについての知識も必要となる。しかし、機器の高度化によりこのような情報が機器そのものを見てもわかりにくかったり、在宅医療機器など自宅で使用する場合は、すぐに専門家の支援を受けられないこともある。そのため、このような様々な情報は、マニュアルなどの紙面やホームページ、または対面や電話・オンラインシステムなどにより、使用する高齢者や障害者が必要な時に適切に伝えられなければならない。特に医療及び福祉機器に関しては、このような情報は、誤操作や誤った数値の解釈等を避ける上でも非常に重要である。

アクセシブルデザイン分野における標準化活動では、これまで分野横断的なアクセシブルデザイン（以下「AD」という。）の基盤規格を策定し、産業界に提供してきた（ISO/TC159 関連規格 12 件、TC173 関連規格 7 件を開発済み）。

しかし、このような機器のアクセシビリティ配慮や使い方、管理・廃棄・返却などの情報の提供方法については、機器そのものではなく機器の取り扱い全般に関する情報伝達に関わるもので、これまでの機器に対するアクセシビリティ配慮では未対応である。このような観点でも、国際標準化対応が進むことで高齢者や障害者のAD機器利用を促進させ、医療及び福祉機器等の市場拡大に繋げることが可能となる。

なお、2021年 ISO/TC159(人間工学) 総会において、TC 内の“重要基盤規格”の一つとして当該標準化活動で開発した ISO/TR22411:2021（高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した製品及びサービスに関する規格 ISO/IEC ガイド 71 を適用するための人間工学的データ及び指針）が位置づけられたことから、アクセシビリティは人間工学分野の基盤として今後ますます活用される状況にあり、これに基づく規格開発が国際的にも求められている。

【新規規格と登録、規格開発提案準備】

製品や環境に対するADについて、これまで ISO/TC159(人間工学) や TC173（福祉用具）で様々な国際標準を作成し、その体系的規格開発は継続されている。本事業では、これらに加えて医療・福祉機器等の利用促進という新しい観点でのAD規格作成を推進する。具体的には機器のAD情報、メンテナンス、管理、廃棄や返却などの一連の流れで必要な情報をどのように視聴覚や認知機能が低下している人に提示、または直接的な伝達方法を規定する。これらの国際標準化を行うことにより、AD機器の利用促進を加速させることが可能となる。

【継続規格】

TC159 では、以下の規格開発を継続して行う。

- (1) ISO/CD 24505-2 人間工学－アクセシブルデザイン－第2部:色弱とロービジョンのための色の組合せ
- (2) WI 24505-3 人間工学－アクセシブルデザイン－第3部:多様な色覚の人々のための色の組合せ
- (3) ISO/AWI TR 22411-2 : ISO/IEC ガイド 71 : 2014 の適用に用いるためのガイダンス－第2部:人間工学的デザイン配慮事項
- (4) WI 人間工学－アクセシブルデザイン－視標と表示における見やすい視覚的コントラスト（仮称）（提案先未定）

TC173 では、以下の規格開発を継続して行う。

- (1) ISO/DIS 6273 福祉機器－福祉機器およびサービスに対する感覚機能に障害のある人のユーザーニーズ調査におけるアクセシビリティのガイドライン

本国内のAD製品市場はすでに3兆円を超えている。継続的なAD市場規模調査（共用品市場規模調査）により、該当する製品の波及効果を数値化する。また、当事者に行う質的調査では、AD製品の利用状況を定量化し該当する製品の配慮事項を明らかにすることで、障害のある人や高齢者の利用状況を継続的に把握する。これらを本事業のKPIに設定する。

2. 令和5年度の実施体制及び事業概要

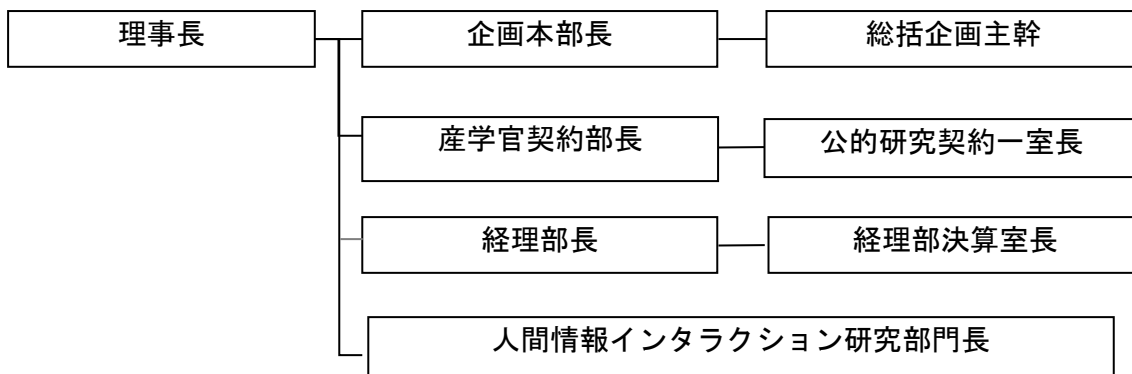
2.1 実施体制

(1) 研究体制

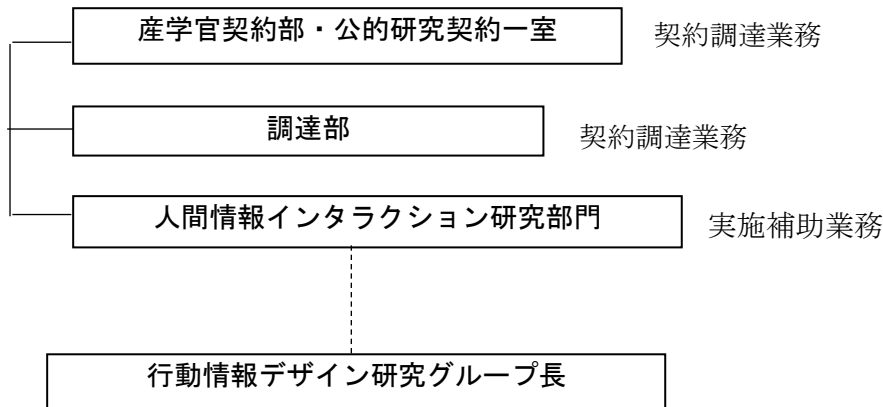
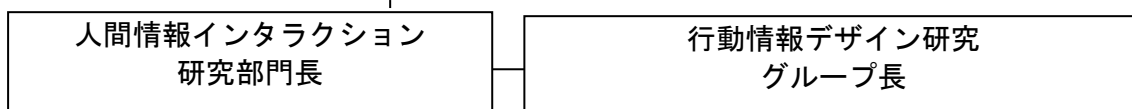
【研究機関A：国立研究開発法人産業技術総合研究所】

- 一. ISO/TC159/WG2, SC3 及び SC5 の国際規格案作成と各 WG の運営、国内委員会（TC159AD 委員会）の運営
- 二. ISO/TC173/SC7国際規格案作成に係る技術的検討
- 三. 欧州等連携

(1) 管理体制



(2) 規格開発体制

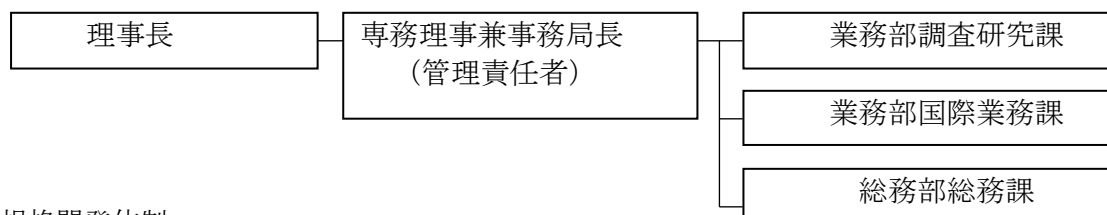


委員会開催・規格作成・報告書作成業務

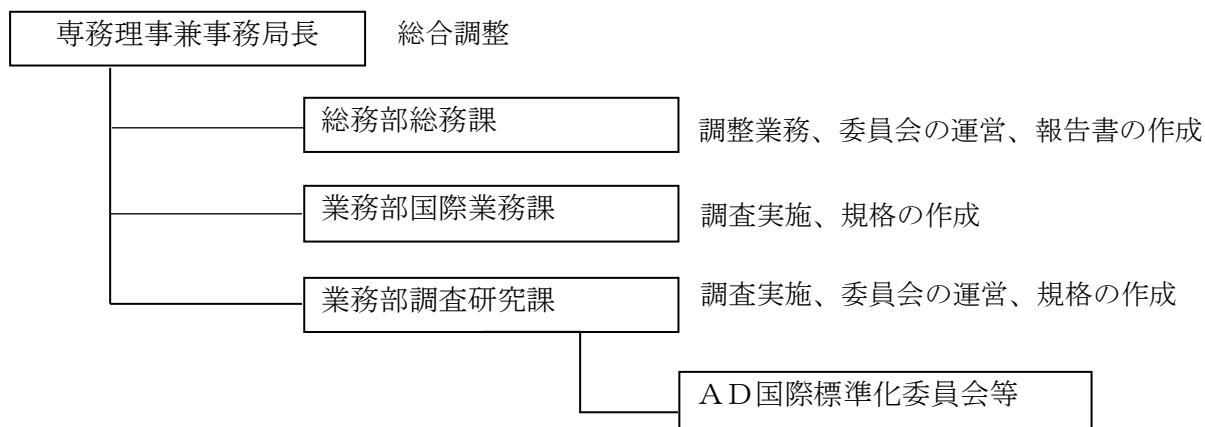
【研究機関B：公益法人共用品推進機構】

- 一. ISO/TC173/SC7 における国際規格案の作成
- 二. ISO/TC159 における国際規格案の検討
- 三. 国内委員会（AD 国際標準化委員会、TC173/SC7/WG7 国内検討委員会、TC159AD 委員会）の設置・運営
- 四. 欧州等連携

(1) 管理体制



(2) 規格開発体制



(2) 委員会構成 (名簿)

(a) A D国際標準化委員会 (本委員会)

番号	種別	氏名	所属
1	委員長	青木 和夫	日本大学
2	委員	小川 光彦	一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
3	委員	児山 啓一	公益社団法人日本サインデザイン協会
4	委員	竹島 恵子	公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
5	委員	澤田 晋一	元独立行政法人労働安全衛生総合研究所
6	委員	河原 雅浩	一般財団法人全日本ろうあ連盟
7	委員	清水 壮一	一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会
8	委員	桐原 尚之	全国「精神病」者集団
9	委員	芳賀 優子	社会福祉法人 国際視覚障害者援護協会
10	委員	中田 誠	一般社団法人日本玩具協会
11	委員	山本 淳	一般財団法人家電製品協会
12	委員	藤本 浩志	早稲田大学
13	委員	平井 純一	公益社団法人日本包装技術協会
14	委員	持丸 正明	国立研究開発法人産業技術総合研究所
15	委員	黒岩 嘉弘	公益財団法人テクノエイド協会
16	委員	山内 繁	特定非営利活動法人支援技術開発機構
17	委員	山田 肇	東洋大学、特定非営利活動法人情報通信政策フォーラム
18	委員	横井 孝志	日本女子大学
19	関係者	平井 那奈	経済産業省商務情報政策局商務・サービスグループヘルスケア産業課医療・福祉機器産業室
20	関係者	村松 雅子	経済産業省産業技術環境局国際標準課
21	関係者	鈴木 孝子	一般財団法人日本規格協会
22	関係者	米田 儀子	一般財団法人日本規格協会
23	関係者	佐川 賢	国立研究開発法人産業技術総合研究所

24	関係者	伊藤 納奈	国立研究開発法人産業技術総合研究所
25	関係者	倉片 憲治	国立研究開発法人産業技術総合研究所・早稲田大学
26	事務局	星川 安之	公益財団法人共用品推進機構
27	事務局	金丸 淳子	公益財団法人共用品推進機構
28	事務局	森川 美和	公益財団法人共用品推進機構

(b) TC173/SC7 国内検討委員会

	種別	氏名	所属・役職
1	委員長	青木 和夫	日本大学
2	委員	竹島 恵子	公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
3	委員	河原 雅浩	一般財団法人全日本ろうあ連盟
4	委員	中田 誠	一般社団法人日本玩具協会
5	委員	上野 浩次	一般財団法人家電製品協会
6	委員	平井 純一	公益社団法人日本包装技術協会
7	委員	五島 清国	公益財団法人テクノエイド協会
8	委員	山内 繁	特定非営利活動法人支援技術開発機構
9	委員	山田 肇	東洋大学、特定非営利活動法人情報通信政策フォーラム
10	委員	野村 綾菜	一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会
11	委員	万場 徹	公益社団法人日本通信販売協会
12	委員	榊原 直樹	情報通信アクセス協議会
13	委員	逢坂 忠	社会福祉法人日本視覚障害者団体連合
14	委員	三田 大輔	一般財団法人日本文化用品安全試験所
15	委員	上手 敏彦	一般財団法人日本品質保証機構
16	委員	佐野 竜平	法政大学
17	関係者	平井 那奈	経済産業省商務情報政策局商務・サービスグループヘルスケア産業課医療・福祉機器産業室
18	関係者	村松 雅子	経済産業省産業技術環境局国際標準課
19	関係者	鈴木 孝子	一般財団法人日本規格協会
20	関係者	米田 儀子	一般財団法人日本規格協会
21	事務局	倉片 憲治	国立研究開発法人産業技術総合研究所・早稲田大学
22	事務局	伊藤 納奈	国立研究開発法人産業技術総合研究所
23	事務局	星川 安之	公益財団法人共用品推進機構
24	事務局	金丸 淳子	公益財団法人共用品推進機構
25	事務局	森川 美和	公益財団法人共用品推進機構

(c) TC159AD委員会

番号	種別	氏名	所属・役職
1	委員長	青木 和夫	日本大学
2	委員	鈴木 雅弘	一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
3	委員	河原 雅浩	一般財団法人全日本ろうあ連盟
4	委員	南雲 博文	一般財団法人家電製品協会
5	委員	五島 清国	公益財団法人テクノエイド協会
6	委員	平林 雅夫	一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会
7	委員	笹野 潤	情報通信アクセス協議会
8	委員	逢坂 忠	社会福祉法人日本視覚障害者団体連合
9	委員	郷家 和子	帝京大学
10	委員	中野 美隆	一般社団法人日本電機工業会
11	委員	新美 浩二	一般社団法人日本レストルーム工業会

12	委員	芳賀 優子	社会福祉法人国際視覚障害者援護協会
13	委員	河東 亮	一般社団法人日本ガス石油機器工業会
14	関係者	平井 那奈	経済産業省商務情報政策局商務・サービスグループヘルスケア産業課医療・福祉機器産業室
15	関係者	村松 雅子	経済産業省産業技術環境局国際標準課
16	関係者	鈴木 孝子	一般財団法人日本規格協会
17	関係者	米田 儀子	一般財団法人日本規格協会
18	事務局	伊藤 納奈	国立研究開発法人産業技術総合研究所
19	事務局	近井 学	国立研究開発法人産業技術総合研究所
20	事務局	佐川 賢	国立研究開発法人産業技術総合研究所
21	事務局	倉片 憲治	国立研究開発法人産業技術総合研究所・早稲田大学
22	事務局	星川 安之	公益財団法人共用品推進機構
23	事務局	金丸 淳子	公益財団法人共用品推進機構
24	事務局	森川 美和	公益財団法人共用品推進機構

2.2 実施スケジュール

(1) 委員会開催状況

(a) AD国際標準化委員会（本委員会）

【報告・検討事項】

第1回：令和5年10月4日（水）

(1) 報告事項

・令和5年度全体事業について

(2) 各事業報告・検討事項について

(2)-1 TC173/SC7 関連事業

①ISO/DIS 6273 福祉機器－福祉機器およびサービスに対する感覚機能に障害のある人のユーザーニーズ調査におけるアクセシビリティのガイドライン

(2)-2 ISO/TC159/WG2 及び SC5 関連事業

①ISO/CD 24505-2 人間工学－アクセシブルデザイン－視覚表示物-色の組合せ方法-第2部:色弱とロービジョン

②WI ISO 24505-3 人間工学－アクセシブルデザイン－第3部:多様な色覚の人々のための色の組合せ

③WI 人間工学－アクセシブルデザイン－視標と表示における見やすい視覚的コントラスト

④ISO/AWI TR 22411-2 ISO/IEC ガイド71：2014適用のためのガイダンス－第2部:人間工学的デザイン配慮事項

⑤AD製品の利用における一般アクセシビリティ配慮事項のガイドライン（仮称）

第2回：令和6年2月5日（月）

(1) 報告事項

・令和5年度全体事業報告について

(2) 各事業報告・検討事項について

(2)-1 TC173/SC7 関連事業

①ISO/PRF 6273 福祉機器－福祉機器およびサービスに対する感覚機能に障害のある人のユーザーニーズ調査におけるアクセシビリティのガイドライン

(2)-2 ISO/TC159/WG2、及び SC5 関連事業

①ISO/DIS 24505-2 人間工学－アクセシブルデザイン－第2部:色弱とロービジョンのための色の組合せ

②WI ISO 24505-3 人間工学－アクセシブルデザイン－第3部:多様な色覚の人々のための色の組合せ

③WI 人間工学－アクセシブルデザイン－視標と表示における見やすい視覚的コントラスト

④ISO/AWI TR 22411-2 ISO/IEC ガイド71：2014適用のためのガイダンス－第2部:人間工学的デザイン配慮事項

⑤AD製品の利用における一般アクセシビリティ配慮事項のガイドライン（仮称）

(b) TC173/SC7 国内検討委員会

【報告・検討事項】

第1回：令和5年10月27日（金）

(1) 報告事項

- ・令和5年度全体事業について
- (2) 各事業報告・検討事項について
- ・ISO/DIS 6273 福祉機器-福祉機器およびサービスに対する感覚機能に障害のある人のユーザーニーズ調査におけるアクセシビリティのガイドライン

第2回：令和6年1月26日（金）

審議事項がないため、メールにて進捗等報告を行った。

- (1) 現在審議中の ISO 6273 について
- (2) 定期見直しについて
- (3) SC 7次期プロジェクトの募集
- (4) 新 SC7 への新たな P メンバー登録

(c) TC159AD 委員会

【報告・検討事項】

第1回：令和5年10月4日（水）

(1) 報告事項

- 1) 令和5年度事業実施計画（全体）確認
- 2) 各事業計画（案）について
- ①ISO/CD 24505-2 人間工学－アクセシブルデザイン－第2部：色弱とロービジョンのための色の組合せ
- ②WI ISO 24505-3 人間工学－アクセシブルデザイン－第3部：多様な色覚の人々のための色の組合せ
- ③ISO 24553:2023 人間工学－アクセシブルデザイン－消費生活用製品の操作性
- ④ISO/TR/AWI 22411-2 ISO/IEC ガイド71：2014適用のためのガイダンス－第2部：人間工学的デザイン配慮事項
- ⑤人間工学－アクセシブルデザイン－視標と表示における見やすい視覚的コントラスト（仮称）

(2) 検討事項

- 1) 各事業の内容及び令和5年度の計画について
- 2) その他

第2回：令和6年1月31日（水）

(1) 報告事項

- 1) 令和5年度事業実施進捗について
- ①ISO/DIS24505-2 人間工学－アクセシブルデザイン－第2部：色弱とロービジョンのための色の組合せ
- ②WI ISO 24505-3 人間工学－アクセシブルデザイン－第3部：多様な色覚の人々のための色の組合せ
- ③ISO/TR/AWI 22411-2 ISO/IEC ガイド71：2014適用のためのガイダンス－第2部：人間工学的デザイン配慮事項
- ④人間工学－アクセシブルデザイン－視標と表示における見やすい視覚的コントラスト（仮称）

(2) 検討事項

- 1) 各事業の内容の審議と承認について
- 2) その他

(2) 事業期間

委託契約締結日から令和6年2月29日まで

2.3 事業概要

(1) TC159/WG2、SC3 及び SC5 における共通基盤規格

- (a) ISO/CD 24505-2 Ergonomics - Accessible Design - Part2: Colour combinations for people with colour deficiency and low vision (JIS 未提案、人間工学－アクセシブルデザイン－第2部: 色弱とロービジョンのための色の組合せ)

すでに発行されたISO 24505:2016 Ergonomics - Accessible design - Part1: Colour combinations for young and older people without visual impairments (人間工学－アクセシブルデザイン－第1部 障害の無い若齢者と高齢者のための色の組合せ)の第2部。色弱とロービジョンの色の組合せ方法の提案。PL(プロジェクトリーダー)は伊藤納奈(産総研)

(本年度はDIS 原案作成と投票を行い1月に可決された。)

- (b) WI ISO 24505-3 Ergonomics - Accessible Design - Part3:Colour combinations for population with diverse colour vision (人間工学－アクセシブルデザイン－第3部:多様な色覚の人々のための色の組合せ(仮称))

すでに発行された ISO 24505:2016 の第3部。色の組合せ方法の Part1 及び Part2 を踏まえ、異なる年齢、色弱、ロービジョンが混在する多様な一般社会に対する色の組み合わせ方法を提案。色の組み合わせ方法に関する一連の規格を完結するものとなる。PL は伊藤納奈(産総研)。

(本年度はNP 原案を作成し TC159/SC5 に送付した。現在投票開始待ちである。)

- (c) WI Ergonomics-Accessible design-Visible contrast for signing and marking (人間工学－アクセシブルデザイン－指標と表示における見やすい視覚的コントラスト(仮称))
視環境における視標や表示の見やすいコントラストを規定する規格。主として高齢者やロービジョンを対象とする。PL は伊藤納奈(産総研)。提案先は TC159/SC5/WG5 又は TC159/WG2。

(本年度は実験により高齢者・若齢者・ロービジョン合わせて53名データ収集を行った)

- (d) ISO/TR/AWI 22411-2 Guidance for use in the application of ISO/IEC Guide 71:2014 - Part2: Ergonomic design considerations for accessibility(ISO/IEC ガイド71:2014 4適用のためのガイダンス- 第2部: 人間工学的デザイン配慮事項)

ISO/IEC Guide 71:2014 を活用するためのデザイン配慮事項をまとめた技術資料。PLは伊藤納奈(産総研)。

(本年度は、CENとの共同プロジェクトになったために発行までのスケジュールが変更になったため再提案を行うこととなった。原案とFORM4をTC159に送付済み。投票開始待ち)

- (e) AD製品の利用における一般アクセシビリティ配慮事項のガイドライン(仮称)

機器のAD情報、メンテナンス、管理、廃棄や返却などの一連の流れで必要な情報をどのように視聴覚や認知機能が低下している人に提示するときの配慮事項についてまとめる。

(今年度は関連規格情報の収集を行った)。

(2) TC173 におけるデザイン要素規格

- (a) ISO/PRF 6273 福祉機器－福祉機器およびサービスに対する感覚機能に障害のある人のユーザーニーズ調査におけるアクセシビリティのガイドライン

(本年度は DIS が受理され、発行前の最終確認を終えたところである。)

(3) 国内検討委員会の設置

国内に全体の案件を審議するAD標準化検討委員会(本委員会)を設置し、TC159に関する案件はTC159AD委員会、TC173に関する案件はTC173/SC7国内検討委員会を設置して審議を行った。

(4) 欧州等連携

TC159 及び TC173 のオンラインにて各国際会議に出席した。欧州等各関係機関等と連携を図り、日本提案のAD規格案件に対する説明及び議論の整理を行った。

(5) 報告書の作成

上記 (1) ～ (4) の結果を報告書として取りまとめた。

3. 事業実施内容

3.1 TC159/WG2、SC3 及び SC5 における共通基盤規格

本事業では、共通基盤規格（人間工学的手法に基づく、製品等の種類によらず横断的に適用可能なアクセシブルデザイン規格）の開発を行ってきている。JIS（日本産業規格）及び本事業における実験・調査結果をもとに、ISO/TC159(人間工学)WG2(特別な配慮を必要とする人々のための人間工学)及び同 SC5（物理的環境の人間工学）に対して国際標準化を提案してきた。

これまで下記 11 件の規格を提案し、令和 5 年度までに発行されている。

- ①ISO 24500:2010 “Ergonomics - Accessible design - Auditory signals for consumer products”
(JIS S 0013 アクセシブルデザインー消費生活用製品の報知音)
- ②ISO 24501:2010 “Ergonomics - Accessible design - Sound pressure levels of auditory signals for consumer products”
(JIS S 0014 高齢者・障害者配慮設計指針ー消費生活用製品の報知音ー妨害音及び聴覚の加齢変化を考慮した音圧レベル)
- ③ISO 24502:2010 “Ergonomics-Accessible design - Specification of age-related luminance contrast for coloured light”
(JIS S 0031 高齢者・障害者配慮設計指針ー視覚表示物ー色光の年代別輝度コントラストの求め方及び光の評価方法)
- ④ISO 24503:2011 “Ergonomics - Accessible design - Tactile dots and bars on consumer products”
(JIS S 0011 高齢者・障害者配慮設計指針ー消費生活製品の凸点及び凸バー)
- ⑤ISO 24504:2014 “Ergonomics - Accessible design - Sound pressure levels of spoken announcements for products and public address systems”
(JIS 未提案 人間工学ーアクセシブルデザインー製品及び場内放送設備の音声アナウンスの音圧レベル)
- ⑥ISO 24505:2016 “Ergonomics - Accessible design - Method for creating colour combinations taking account of age-related changes in human colour vision”
(JIS S 0033 高齢者・障害者配慮設計指針ー視覚表示物ー年齢を考慮した基本色領域に基づく色の組合せ方法)
- ⑦ISO 24508:2019 “Ergonomics-Accessible design - Guidelines for designing tactile symbols and characters”
(JIS S 0052 :2011 高齢者・障害者配慮設計指針ー触覚情報ー触知図形の基本設計方法)
- ⑧ISO 24550:2019 “Ergonomics Accessible design Indicator lights on consumer products”
(JIS 化検討中 消費生活用製品の報知光)
- ⑨ISO 24551:2019 “Ergonomics Accessible design Spoken instructions of consumer products”
(JIS S 0015 アクセシブルデザインー消費生活用製品の音声案内)
- ⑩ISO/TR 22411:2021 “Ergonomics data and guidelines for the application of ISO/IEC Guide 71 to products and services to address the needs of older persons and persons with disabilities”
(高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した製品及びサービスに関する規格 ISO/IEC ガイド 71 を適用するための人間工学的データ及び指針)
- ⑪ISO 24553:2023 “Ergonomics - Accessible design - Ease of operation”
(JIS 化 検討中 消費生活用製品の操作性)

これに続き、令和 5 年度は、同 TC159/WG2/、SC3、及び SC5 に提案した下記 5 件の規格案の審議と今後提案予定の課題の実験を行った。

- ①ISO/DIS 24505-2 “Ergonomics - Accessible Design - Part 2: Colour combinations for people with colour deficiency and low vision”（人間工学ーアクセシブルデザインー第 2 部:色弱とロ
ー
ビジョンのための色の組合せ)

- ②WI ISO 24505-3 “Ergonomics – Accessible Design – Part 3: Colour combinations for population with diverse colour vision(tentative)” (人間工学—アクセシブルデザイン—第3部:多様な色覚の人々のための色の組合せ)
- ③ISO/TR 22411-2 “Guidance for use in the application of ISO/IEC Guide 71:2014-Part2:Ergonomics design considerations for accessibility (ISO/IEC ガイド 71 : 2014 の適用のためのガイダンス— 第2部:人間工学的デザイン配慮事項)
- ④Ergonomics-Accessible design-Visible contrast for signing and marking (人間工学—アクセシブルデザイン—視標と表示における見やすい視覚的コントラスト)
- ⑤ AD製品の利用における一般アクセシビリティ配慮事項のガイドライン (仮称)

以下に、これらの個別の規格案と実験について、令和5年度の作業実績を報告する。

- ①ISO/DIS 24505-2 “Ergonomics – Accessible Design – Part 2: Colour combinations for people with colour deficiency and low vision”(人間工学—アクセシブルデザイン—第2部:色弱とロービジョンのための色の組合せ)

すでに発行された ISO24505:2016 Ergonomics – Accessible design – Part1: Colour combinations for young and older people without visual impairments (人間工学—アクセシブルデザイン—第1部 障害の無い若齢者と高齢者のための色の組合せ) の第2部 色弱とロービジョンの色の組合せ法の提案。PL(プロジェクトリーダー)は伊藤納奈(産総研)。本提案は ISO24505:2016 の技術内容に基づき、データのみを色弱とロービジョンに置き換えるもので、2021年CD (委員会原案) レベルで登録された。

2023年7月7日にWG5を開催し、CD投票コメント対応及びそれに基づいて修正された原案について審議を行った。「defective colour vision」を「people with colour deficiency」に変更することになった。10月にDIS(国際規格原案)投票が開始。1月10日に締め切れ、賛成9(Pメンバー7カ国全員賛成)、反対0、棄権15で可決。テクニカルな指摘は無いため発行に進むこともできるが、ISO EM(編集マネージャー)からの指摘に検討が必要な事項があるため修正をしてFDIS(最終国際規格原案)投票を行う予定。なお、ISO24505:2016については、24505シリーズのPart1とするため、タイトル変更のFDIS投票を行う予定である。新タイトル案は、ISOのEMからタイトルに使用する言葉は3つ以内と言う指摘があり、ISO/TC159TPMとは以下のように統一することで合意された。今後タイトル変更に関するCIB投票が行われる予定。

ISO 24505-1 Ergonomics – Accessible design – Part1: Colour combinations for young and older people without visual impairments

ISO 24505-2 Ergonomics – Accessible Design – Part 2: Colour combinations for people with colour deficiency and low vision

ISO 24505-3 Ergonomics – Accessible Design – Part 3: Colour combinations for population with diverse colour vision

Part 2 : 色弱とロービジョン

ISO/DIS 24505-2 Ergonomics – Accessible Design – Part 2: Colour combinations for people with colour deficiency and low vision

- 1 Scope
- 2 Normative references
- 3 Terms and definitions

4	General
4.1	Application criteria for colour deficiency and low vision
4.2	Viewing modes and conditions
5	Colour combinations for protanopia and deuteranopia
5.1	General
5.2	Protanopia
5.2.1	Table showing two-colour combinations and their conspicuity for protanopia
5.2.2	Spans of fundamental colours for protanopia (Span1).
5.3	Deuteranopia
5.3.1	Table showing two-colour combinations and their conspicuity for deuteranopia
5.3.2	Spans of fundamental colours for deuteranopia (Span 1)
6	Colour combinations for low vision
6.1	General
6.2	Table showing two-colour combinations and their conspicuity for people with low vision
6.3	Spans of fundamental colours for people with low vision (Span1).
7	Procedures to create a colour combination for people with colour deficiency and low vision
Annex A (informative) Description and classification of colour deficiency, and sources of data for the fundamental colour spans adopted in this document	
Annex B (informative) Description of low vision and the sources of data for fundamental colour spans adopted in this document	
Bibliography	

②WI ISO 24505-3, Ergonomics – Accessible Design – Part 3: Colour combinations for population with diverse colour vision (人間工学—アクセシブルデザイン—第3部：多様な色覚の人々のための色の組合せ)

ISO24505:2016 の第3部、色の組合せ法の Part1 及びPart2 を踏まえ、異なる年齢、色弱、ロービジョンが混在する多様な一般社会に対する色の組み合わせ方法を提案。色の組み合わせに関する一連の規格を完結するものとなる。PL は伊藤納奈(産総研)の予定提案先は TC159/SC5/WG5。

7月のWG5会議で指摘された英文の不明瞭な点は英文校閲を経て改善し、1月16日にNP(新規提案)資料を一式ISO事務局に送付済み。今後投票が開始される見込み。

Part 3 : 多様な色覚の人々

WI ISO 24505-3 Ergonomics – Accessible design – Method for creating colour combinations – Part 3: For population with diverse colour vision

1	Scope
2	Normative references
3	Terms and definitions
4	General principle
4.1	Definition of a common and an inclusive area for spans of a fundamental colour of different colour visions
4.1.1	Span 1-IA: Inclusive area of span 1 (the 50% similarity)
4.1.2	Span 1-CA: Common area of span 1 (the center area of the 50% similarity)
4.1.3	Span2- IA: Inclusive area of span 2 (the 10% similarity)

4.1.4	Data on the spans for the 13 fundamental colours.
4.2	Colour combinations and their classification for population with five different colour vision
4.3	Viewing modes and conditions
5	Colour combinations for population with five different colour visions
5.1	Data on span 1-CA, span 1-IA and span 2-IA
5.2	Colour combination table
5.2.1	Table of two-colour combinations and their conspicuity for population with five different colour visions
5.3	Choice of a colour for a fundamental colour
5.4	Procedures to create a colour combination for population with five different colour visions
Annex A (normative)	Data on Span 1-CA, Span 1-IA and Span 2-IA
A.1	General
A.2	Data
Annex B (informative)	Examples of two-colour combination and their conspicuity levels
B.1	General
B.2	Colour combination examples
Bibliography	

③ISO/TR/AWI 22411-2 “Guidance for use in the application of ISO/IEC Guide 71:2014 – Part2: Ergonomic design considerations for accessibility” (ISO/IEC ガイド71:2014 適用のためのガイダンスー 第2部:人間工学的デザイン配慮事項(仮称))

ISO/IEC Guide 71:2014 を活用するためのデザイン配慮事項をまとめた技術報告書。PL は伊藤納奈(産総研)。提案先は TC159/WG2。

ISO/TR22411 改訂版の Part2 (Part1 は人間特性データとして 2021 年に発行済み)。TC159 内の投票により作業項目が承認・登録され、内容審議及び文書作成が開始された。デザイン戦略、人間特性の基礎的理解、デザイン配慮事項、成功事例などを含む。主に、第5章デザイン戦略、第6章人間特性、第7章デザイン要件、附属書Aアクセシブルデザイン事例についてそれぞれ、日本、ドイツチームで編集を進めている。今年度は5回(5月30日、7月17日、9月7日、11月6日、12月8日)オンラインで会議を開催。また9月28、29日のTC159総会で、本件がCEN(欧州標準化委員会)との共同プロジェクトになり、CENの投票前にTC内でコメント収集・反映させる必要があることから出版予定の2024年6月より約1年前までにWD完成が必要となるため、一度キャンセルし再度提案してほしいとの指示があった。そのため12月25日に現在のドラフトを添付しTC159に送付済み。現在TC159での作業項目の再承認待ち。

現時点での規格案の構成は、次のとおりである：

TR/AWI 22411-2 “Guidance for use in the application of ISO/IEC Guide 71:2014 – Part 2: Ergonomics design considerations for accessibility

1	Scope
2	Normative references
3	Terms and definitions
4	Using this part of the TR
5	Considerations related to Strategies of Accessibility needs
5.1	General 2
5.2	Provide multiple means of information presentation and user interaction
5.3	Set fixed parameters to accommodate the widest range of users
5.4	Set adjustable parameters to accommodate the widest range of users
5.5	Minimize unnecessary complexity

- 5.6 Provide individualized access to a system
- 5.7 Eliminate unnecessary limits or constraints on user interactions with a system
- 5.8 Provide compatibility with assistive products and assistive technology
- 5.9 Provide alternative versions of a system
- 6 Characteristics and capabilities of human sensory, physical and cognitive functions to consider accessibility
 - 6.1 General
 - 6.2 Sensory abilities and characteristics
 - 6.2.1 Seeing abilities and characteristics
 - 6.2.2 Hearing abilities and characteristics
 - 6.2.3 Touch function
 - 6.2.4 Thermal sense
 - 6.3 Physical abilities and characteristics
 - 6.3.1 General
 - 6.3.2 Body size
 - 6.3.3 Movements (upper extremities, lower extremities)
 - 6.3.4 Strength
 - 6.4 Cognitive abilities and characteristics
 - 6.4.1 General
 - 6.4.2 Attention
 - 6.4.3 Memory
 - 6.4.4 Learning
 - 6.4.5 Thinking and Language/Literacy
- 7 Factors to consider with design guideline
 - 7.1 Multiple means of presentation and operation
 - 7.1.1 Multiple means of presentation
 - 7.1.2 Multiple means of operation
 - 7.2 Presentation of information
 - 7.2.1 Visual information
 - 7.2.2 Position of information
 - 7.2.3 Size and style of font and symbols
 - 7.2.4 Graphical symbols and illustration
 - 7.2.5 Multiple languages
 - 7.2.6 Slow pace of information presentation
 - 7.2.7 Instruction manuals
 - 7.2.8 Prevention of seizures
 - 7.3 Operable elements
 - 7.3.1 Location of controls
 - 7.3.2 Layout and labelling of controls
 - 7.3.3 Handling
 - 7.3.4 Spacing
 - 7.3.5 Status
 - 7.3.6 Duration of actions
 - 7.3.7 Timed responses
 - 7.3.8 Biological identification and operation
 - 7.4 Logical process
 - 7.4.1 Operations
 - 7.4.2 Feedback
 - 7.4.3 Repeated actions
 - 7.4.4 Other design considerations concerning cognitive abilities
 - 7.5 Lighting levels and glare
 - 7.5.1 Provision of lighting
 - 7.5.2 Consideration of ambient lighting

- 7.5.3 Lighting in buildings
- 7.5.4 Avoidance of glare
- 7.6 Colour and contrast
 - 7.6.1 Choice of colour 32
 - 7.6.2 Colour combinations
 - 7.6.3 Colour coding of information
 - 7.6.4 Luminance contrast
- 7.7 Plain language
 - 7.7.1 Information available as text
 - 7.7.2 Complexity of information
 - 7.7.3 Spoken information
- 7.8 Acoustics
 - 7.8.1 Acoustical design
 - 7.8.2 Auditory signals
 - 7.8.3 Communication systems
 - 7.8.4 Loudness and pitch of non-spoken communication
- 7.9 Distinctive form of product, control or packaging
 - 7.9.1 Identification by form
 - 7.9.2 Orientation of product or control
 - 7.9.3 Tactile warnings
- 7.10 Ease of handling
 - 7.10.1 Size, shape and mass
 - 7.10.2 Containers and packaging
 - 7.10.3 Assembly and maintenance
- 7.11 Buildings
 - 7.11.1 General
 - 7.11.2 Accessible routes
 - 7.11.3 Stairs
 - 7.11.4 Swing, sliding or powered door-closing systems
 - 7.11.5 Lighting
 - 7.11.6 Ease of handling
 - 7.11.7 Route information
 - 7.11.8 Emergency routes
 - 7.11.9 Seating
 - 7.11.10 Flooring
 - 7.11.11 Room acoustics
- 7.12 Surface temperature
 - 7.12.1 Appropriate range of surface temperature of objects
 - 7.12.2 Ambient air temperature
- 7.13 Surface finish
 - 7.13.1 Slip-resistance and texture
 - 7.13.2 Sharp points
 - 7.13.3 Non-glare surface finish
 - 7.13.4 Flooring
- 7.14 Haptics
 - 7.14.1 Tactile markings
 - 7.14.2 Tactile information
- Annex A (informative) Collection of good practice of accessibility
 - A.1 General
 - A.2 Good practice
 - A.2.1 Information presentation
 - A.2.2 Physical operation
- Bibliography

④Ergonomics-Accessible design-Visible contrast for signing and marking (人間工学-アクセシブルデザイン-視標と表示における見やすい視覚的コントラスト) (仮称)

視環境における視標や表示の見やすいコントラストを規定する規格。見やすさは主として高齢者やロービジョンを対象とする。PLは伊藤納奈(産総研)。提案先は TC159/SC5/WG5 又は TC159/WG2 を予定。

今年度は昨年度のモノトーンでのコントラストに続き、色のコントラスト実験データを収集した。今年度分として1月末までに高齢者10名、若齢者26名、ロービジョン17名のデータを収集予定。また2024年にロービジョン被験者を数名収集予定(目標20人)。

現時点での規格案の構成は、次のとおりである：

Ergonomics - Accessible design - Visible contrast for signing and marking

- 1 Scope
 - 2 Normative references
 - 3 Terms and definitions

 - 4 Method for evaluating visual contrast
 - 4.1 Definition of visual contrast: luminance ration, Weber fraction, Michelson contrast
 - 4.2 Visual contrast of achromatic or pseudo-achromatic colours
 - 4.3 Visual contrast of chromatic or pseudo-chromatic colours
 - 5 Recommended contrast values for young people, older people and people with low vision
 - 5.1 Visual contrast of simple patterns
 - 5.2 Visual contrast of complex e.g. stripe or character patterns
 - 5.3 Visual contrast of chromatic patterns
- Annex: Relation between visual contrast and chromatic or achromatic differences
-
-

⑤ AD製品の利用における一般アクセシビリティ配慮事項のガイドライン (仮称)

今年度は、既存の規格など関連情報の収集を行った。次年度に機器のAD情報、メンテナンス、管理、廃棄や返却などの一連の流れで必要な情報をどのように視聴覚や認知機能が低下している人に提示すべきかの調査を実施し、規格構成案を検討する。

3.2 TC173 におけるデザイン要素規格

本事業では、アクセシブルデザイン要素における ISO 規格原案の開発、作成を行ってきた。JIS(日本 産業規格)及び本事業における調査研究結果をもとに、ISO/IEC/JTAG(Joint Technical Advisory Group、合同専門諮問グループ)及び ISO/TC173(福祉機器)/SC7(アクセシブルデザイン)に対して国際標準化を 提案してきた。

関連規格としては、平成 26 年から平成 28 年度までに下記の 7 件の規格提案を行い発行されている。

- ①ISO/IEC Guide71:2014 “Guide for addressing accessibility in standards” (規格におけるアクセシビリティ配慮のためのガイド) (ISO/IEC/JTAG)
- ②ISO 17069:2014 “Accessible design - Consideration and assistive products for accessible meeting” (アクセシブルデザインーアクセシブル会議の留意事項及び支援製品) (ISO/TC173/SC7/WG2)
- ③ISO 19026:2015 “Accessible design - Shape and colour of a flushing button and a call button, and their arrangement with a paper dispenser installed on the wall in public restroom” (アクセシブルデザインー公共トイレの壁面の洗浄ボタン、呼出しボタンの形状及び色並びに紙巻器を含めた配置) (ISO/TC173/SC7/WG3)
- ④ISO 19028:2016 “Accessible design - Information contents, figuration and display methods of tactile guide maps” (アクセシブルデザインー触知案内図の情報内容、形状及び表示方法) (ISO/TC173/SC7/WG5)
- ⑤ISO 19027:2016 “Design principles for communication support board using pictorial symbols “ (絵記号を使用したコミュニケーション支援用ボードのためのデザイン原則) (ISO/TC173/SC7/WG4)
- ⑥ISO 19029:2016 “Accessible design - Auditory guiding symbols in public facilities” (アクセシブルデザインー公共施設における聴覚的誘導信号) (ISO/TC173/SC7/WG6)
- ⑦ISO/TC173/WG12 で審議されていた「ISO 21856 Assistive products - General requirements and test methods(一般通則と試験方法)」の「25.2 Instructions for use(取扱説明)」及び Annex C (ISO/TC173/WG12)

上記に続き、令和 5 年度は、下記 1 件の規格案の審議を進めた。

- ①福祉用具ー感覚機能に障害のある人のための福祉用具に関するユーザーニーズ調査のガイドライン

次頁から、今年度の国際規格に関する事項について作業実績を報告する。

①ISO/PRF 6273 福祉機器—福祉機器及びサービスに対する感覚機能に障害のある人のユーザーニーズ調査におけるアクセシビリティのガイドライン

2018年、2019年に開催された ISO/TC173 総会での意見を踏まえ本規格の原案を作成し直し、2020年12月7日に ISO/TC173/SC7 に新規案件として提案を行った。投票の結果、2021年3月1日に承認され、同年6月より WG7 にて規格に関する審議を行ってきた。

2022年12月に CD 登録、2023年5月に DIS が承認された。2023年10月までワーキンググループで審議を行い、本年1月に最終校正が完了した。規格発行は本年3月の予定である。

規格内容の構成案は、以下のとおりである。

ISO/PRF 6273 Assistive products – Accessibility guidelines and requirements to survey the needs of persons with sensory disabilities for assistive products and services

目次

Foreword

Introduction

- 1 Scope
- 2 Normative references
- 3 Terms and definitions
- 4 Accessibility of surveys
 - 4.1 Management of the survey process
 - 4.1.1 Accessibility requirements and recommendations
 - 4.1.2 Planning of the survey project
 - 4.1.3 Documentation of the survey process
 - 4.1.4 Design of the data collection instruments and pre-tests
 - 4.1.5 Recruitment of participants
 - 4.1.6 Problems and complaints management
 - 4.2 Types of survey data
 - 4.2.1 General
 - 4.2.2 Quantitative data
 - 4.2.3 Qualitative data
- 5 Data collection
 - 5.1 General
 - 5.2 Questionnaires
 - 5.2.1 Format of questionnaire
 - 5.2.2 Open-ended and closed-ended questions

- 5.3 Interviews and focus groups
 - 5.3.1 General
 - 5.3.2 Accessibility of interviews
 - 5.3.3 Format of interviews
 - 5.3.4 Types of interviews
 - 5.3.5 Interviewee types
- 6 User needs for assistive products
 - 6.1 General
 - 6.2 User needs regarding existing assistive products
 - 6.2.1 General
 - 6.2.2 Identification of performance deficiencies, problems or potential improvements
 - 6.2.3 Usability of existing assistive products
 - 6.3 User needs for new assistive products
- 7 Accessibility guidelines for survey with persons with sensory disabilities
 - 7.1 General
 - 7.2 Accessibility principles in questionnaire and interview
 - 7.2.1 General
 - 7.2.2 Perceivable
 - 7.2.3 Operable
 - 7.2.4 Understandable
 - 7.2.5 Robust

Bibliography

3.3 欧州等連携

TC173 及びTC159 の各オンライン国際会議において欧州等各関係機関等と連携を図り、日本提案のAD規格案件に対する説明及び議論の整理を行った。

TC173 においては、TC173 のメンバーや関係国にメール等で現状報告や状況共有を行い、我が国の提案事項がスムーズに運ぶよう理解を求めた。

TC159 については、TC159/SC5/WG5 で審議予定の ISO24505-3 に対し NEAS Forum (Northeast Asia Standards Cooperation Forum) WG47 (人間工学の安全性と快適性) (オンライン開催) にて 24505-3 の考え方やデータについて紹介し、NP 投票とエキスパート登録をお願いした。

附属資料：

附属資料 1. (1) 及び (2) AD国際標準化委員会(本委員会)議事録 (第 1 回、第 2 回)

附属資料 2. (1) 及び (2) TC159AD 委員会議事録 (第 1 回、第 2 回)

附属資料 3. (1) 及び (2) TC173/SC7 国内検討委員会議事録 (第 1 回)

附属資料 1. (1) 第 1 回 AD 国際標準化委員会（本委員会）議事録

1. 日 時：2023（令和 5）年 10 月 4 日（水）13 時～14 時
2. 場 所：（公財）共用品推進機構 会議室（オンライン会議システム Webex）
3. 出席者：委員長・委員 14 名、関係者・事務局 11 名（合計 25 名）
4. 挨拶、出席委員・関係者紹介、委員長選出

会の冒頭に経済産業省医療・福祉機器産業室ご担当者よりご挨拶をいただいた。続いて出席委員、関係者の紹介を行ったのち、委員長選出を行った。事務局より委員長推薦があり、議場に諮ったところ出席委員全員をもって承認された。

5. 議 事

(1) 報告・検討事項

1) 令和 5 年度全体事業計画について

事務局が AD 国際本資料 1-2 を基に説明を行った。

2) 各事業計画(案)について

2)-1 TC173/SC7 関連事業

① ISO/DIS 6273 福祉機器-福祉機器およびサービスに対する感覚機能に障害のある人のユーザーニーズ調査におけるアクセシビリティのガイドライン

事務局が AD 国際本資料 1-4、参考資料 1 から 4 を基に報告を行った。本件については報告の通りで承認された。

2)-2 TC159/WG2、SC3 及び SC5 関連事業

① ISO/CD 24505-2 人間工学-アクセシブルデザイン-第 2 部:色弱とロービジョンのための色の組合せ

② WI 24505-3 人間工学-アクセシブルデザイン-第 3 部:多様な色覚の人々のための色の組合せ(仮称)

③ WI 人間工学-アクセシブルデザイン-視標と表示における見やすい視覚的コントラスト

④ ISO/AWI TR 22411-2 ISO/IEC ガイド 71:2014 適用のためのガイダンス- 第 2 部:人間工学的デザイン配慮事項

⑤ AD 製品の利用における一般アクセシビリティ配慮事項のガイドライン (仮称)

事務局が TC159 における AD 関連規格の進捗状況について AD 国際本資料 1-5 を基に説明、報告を行った。さらに「④ ISO/AWI TR 22411-2 ISO/IEC ガイド 71:2014 適用のためのガイダンス- 第 2 部:人間工学的デザイン配慮事項」については AD 国際本資料 1-9 で補足説明した。主な質問は以下の通りである。

委員：(ISO TR22411-2 の) 実例に製品の説明、写真、ブランド名等を掲載することについて

は、かなり慎重に取り扱った方がよいと思う。ISO/TC314 (Ageing Societies) の WG5 (Home care) で A 先生にコンビーナをしていただいているが、在宅介護に利用される機器、環境に関するアクセシビリティということで TR を発行しようとした際、実例等（例えば文字の大きく見やすい体温計など）を添えた写真を載せたところ、ISO 事務局から非常に細かな指摘があった。広告になっていないか、掲載するモノには許諾を得ているかなど長いチェックがかかり、対応に半年から 1 年ほど時間を要した。そのことから、本件は早めに中央事務局と調整した方がよいと思う。A 先生、補足をお願いしたい。

事務局：委員がおっしゃっていただいた通りで、図が 10 枚ほどあったが、それらの殆どを手書きのイラストに差し替えた。委員は中央事務局との関係でおっしゃっていただいたが、実は国内でも写真の権利を持っている会社とのやり取りが必要であり確認に時間を要した。ただこのことは悪い側面ばかりでは

なく、イラストにしたおかげで図の中にあった余分な情報を削ぎ落とすことができた。結果、アクセシビリティのどの部分が重要かということが、かえって分かりやすくなったというメリットもあった。イラスト化することを面倒だと思わずに、よりよい図に差し替えるチャンスだとみてくださってもよいのではないかと思う。

→事務局：検討する。

上記のご意見に対する対応を含め TC159 に関する件は報告の通りで承認された。

(2)次回委員会

令和 6 年（2024 年）2 月 5 日（月）14 時から 16 時

6. 挨拶

閉会に際し、経済産業省国際標準課のご担当者よりご挨拶をいただいた。

7. 配布資料

AD 国際本資料 1-1：令和 5 年度第 1 回 AD 国際標準化委員会（本委員会）議事次第

AD 国際本資料 1-2：令和 5 年度共用品国際標準化実施計画書概要

AD 国際本資料 1-3：AD 国際標準化委員会（本委員会）名簿

AD 国際本資料 1-4：ISO/DIS 6273 福祉機器-福祉機器およびサービスに対する感覚機能に障害のある人のユーザーニーズ調査におけるアクセシビリティのガイドライン

AD 国際本資料 1-5：TC159 における AD 国際標準化：令和 5 年度進捗状況

AD 国際本資料 1-6：ISO24505-2_原案

AD 国際本資料 1-7：ISO24505-2_コメント

AD 国際本資料 1-8：ISO24505-3_220117_WD

AD 国際本資料 1-9：ISO_TR22411-2_Annex A_Good Practice（作成中）

AD 国際本資料 1-10：見やすいコントラスト規格案及びコントラスト評価実験報告

参考資料 1：ISO/TC 173/SC 7/WG 7 進捗状況等

参考資料 2：ISO/TC 173/SC 7 で制定、または作成中の規格の現状

参考資料 3：ISO 規格の制定手順等（別添）

参考資料 4：機械翻訳 ISO/DIS 6273:2022(E)（別添）

附属資料 1.(2)第 2 回 AD 国際標準化委員会（本委員会）議事録

1. 日 時：2024（令和 6）年 2 月 5 日（月）14 時～15 時 20 分
2. 場 所：（公財）共用品推進機構 会議室（オンライン会議システム Webex）
3. 出席者：委員長・委員 14 名、関係者・事務局 9 名（合計 23 名）
4. 挨拶、出席委員・関係者紹介

会の冒頭に経済産業省医療・福祉機器産業室のご担当者よりご挨拶をいただいた。続いて出席委員、関係者の紹介を行った。

5. 関係団体からの報告

AD 国際本別添資料 1 を基に ISO19026 採用国拡大に向けた取り組みについて報告をいただいた。

6. 議 事

(1) 報告事項

1) 令和 5 年度全体事業報告について

事務局が AD 国際本資料 2-2 を基に報告を行った。

2) 各事業報告・検討事項について

2)-1 TC173/SC7 関連事業

① ISO/PRF 6273 福祉機器-福祉機器およびサービスに関する感覚障害者のニーズを調査するためのアクセシビリティ・ガイドラインおよび要求事項

事務局が AD 国際本資料 2-4、参考資料 1 から 3 を基に報告を行った。本件については報告の通りで承認された。

2)-2 TC159/WG2、SC3 及び SC5 関連事業

① ISO/CD 24505-2 人間工学-アクセシブルデザイン-第 2 部:色弱とロービジョンのための色の組合せ

② WI 24505-3 人間工学-アクセシブルデザイン-第 3 部:多様な色覚の人々のための色の組合せ（仮称）

③ WI 人間工学-アクセシブルデザイン-視標と表示における見やすいコントラスト

④ ISO/AWI TR 22411-2 ISO/IEC ガイド 7 1 : 2 0 1 4 適用のためのガイダンス- 第 2 部:人間工学的デザイン配慮事項

⑤ AD 製品の利用における一般アクセシビリティ配慮事項のガイドライン（仮称）

事務局が TC159 における AD 関連規格の進捗状況について AD 国際本資料 2-5 を基に説明、報告を行った。主な質問は以下の通りである。

② 多様な色覚の人々のための色の組合せ（仮称）について

委員：2021 年だと記憶しているが、イギリスのサッカーの試合において、両者ユニフォームの色を変えてでてきたはずだったが、色覚異常のある方にとっては全く同じに見えてゲームが楽しめず、サッカー協会に苦情が殺到したという話があった。紹介いただいた規格は、スタティックに限定されているようだが、サッカーのユニフォームなどにもダイナミックに拡大し、各スポーツ団体等に、この規格に則ってユニフォームの色を定めるというようなことを要求できるのではないかと思うがいかがか。

→事務局：スタティックではあるが、ユニフォームの色の場合は、本規格は十分適用できていると思う。scope のところで物理環境ということを書いているが、実は基盤的な規格で、特に物理環境という制限を入れていないので応用していただけていると思う。

委員：トイレに関する規格の報告で、規格の普及と具体的にトイレの改修が進んでおらず苦労されているとうかがった。良い規格を作ってもだれにも利用されなければ何の価値も生まないのでぜひ積極的に各種の競技団体等にも理解促進を行えば、規格の普及や各国の採用にも将来的につながっていくと思う。
→事務局：普及については様々な要望が届いている。今後は、一般の方々や他の業界団体にも普及していきたいと考えている。

④ISO/AWI TR 22411-2 ISO/IEC ガイド 71:2014 適用のためのガイダンス- 第2部:人間工学的デザイン配慮事項について

委員：TC159AD 委員会でもご説明があったが、どのような方法で好事例を集めているか、また当事者団体から好事例の情報を出したい場合、どのような方法で情報を提供すればよいか教えていただきたい。

→事務局：全体としては WG2 に来ているエキスパート、例えばドイツやスウェーデンの方が積極的にそこから情報を得ている。日本については、当該委員会、TC159AD の委員会で声をかけさせていただいている。皆様から以下のメールアドレスにご意見をいただければ検討させていただきたいと思う。

委員：承知した。

委員：総務省が ICT のアクセシビリティの好事例を募集しており、現在数件の応募があったと聞いている。3月頃に公表の予定である。進捗があった際にはご報告したいと思うので本件の参考にしていただければと思う。

参考ウェブサイト：「情報アクセシビリティ好事例 2023」候補製品・サービスの募集
https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01ryutsu05_02000156.html

→事務局：承知した。

委員：アクセシブルな製品の好事例はいつ頃まで募集されるか教えてほしい。

→事務局：8月末までをお願いしたい。

委員：了解した。

上記のご意見に対する対応を含め TC159 に関する件は報告の通りで承認された。

(2)その他

当該事業成果報告書の内容については委員長一任で承認された。

7. 挨拶

閉会に際し、経済産業省国際標準課のご担当者よりご挨拶をいただいた。

8. 配布資料

AD 国際本資料 2-1：令和 5 年度第 2 回 AD 国際標準化委員会（本委員会）議事次第

AD 国際本資料 2-2：令和 5 年度共用品国際標準化実施計画書概要

AD 国際本資料 2-3：AD 国際標準化委員会（本委員会）名簿

AD 国際本資料 2-4：ISO/PRF 6273 福祉機器 - 福祉機器およびサービスに関する感覚障害者のニーズを調査するためのアクセシビリティ・ガイドラインおよび要求事項

A D 国際本資料 2-5 : TC159AD_ADプロジェクト R5 年度進捗状況
A D 国際本資料 2-6 : 24505-2 DIS 投票結果 ISO からのコメント
A D 国際本資料 2-7 : 24505-3 原案最終版
A D 国際本資料 2-8 : 24505-3 翻訳 (参考)
A D 国際本資料 2-9 : TR22411-2 原案
A D 国際本資料 2-10 : TR22411-2 Annex 翻訳 (参考) 報告
A D 国際本資料 2-11 : コントラスト評価実験報告
参考資料 1 : ISO/TC 173/SC 7/WG 7 進捗状況等
参考資料 2 : ISO/TC 173/SC 7 で制定、または作成中の規格の現状
参考資料 3 : 機械翻訳 ISO/PRF 6273:2022(E) (別添)
参考資料 4 : 第 1 回委員会議事録
A D 国際本別添資料 1 : ISO19026 採用国拡大に向けた取り組み

附属資料 2. (1) 第1回 TC159AD 委員会議事録

1. 日時：令和5年10月4日（水） 15時～17時
2. 場所：オンライン会議システム（Webex）
3. 出席者：委員11名、関係者・事務局10名（合計21名）
4. 挨拶、出席委員・関係者紹介、委員長選出

会の冒頭に経済産業省医療・福祉機器産業室ご担当者よりご挨拶をいただいた。続いて出席委員、関係者の紹介を行ったのち、委員長選出を行った。事務局より委員長推薦があり、議場に諮ったところ出席委員全員をもって承認された。

5. 議事

(1) 報告事項

1) 令和5年度事業実施計画（全体）確認

事務局より全体の資料を説明

委員：今年度からの新しい事業として、製品などをどのように使うかという視点を入れるというのはとても重要な視点だと思う。援護協会では日本の視覚特別支援学校の職業課程で3年ほど留学している海外の視覚障害者がいるので、そのような方のニーズも多少だけのご案内はできると思う。外国人の障害のある方も対象となっているかという質問。

→事務局：できるだけ海外の事情も反映したいと考えているのでとてもありがたい。

→委員：すでに帰国した留学生等もいるので、お役に立てることがあればいつでもお声掛けいただければと思う。

→事務局：ありがとうございます。

委員：先程の委員と同じように今回新しい試みとして、とてもいいと思った。実際にこれからどのように流れとして進めていくご予定かわかる範囲で教えてほしい。

→事務局：ここに書けるほど計画を考えていないが、様々な当事者の方々にヒアリングやアンケートをさせていただきたいと考えている。日頃どのようなことを問題として考えているのかを知って、規格につなげていきたいと思っている。

→委員：関連して、ヒアリングする時には若いだけでなく高齢の方も含まれると思う。ある市で障害関連のことに携わっているが、視覚に障害がある高齢の方が、洗濯機などすべてが音声になっているわけではないため、非常に困っていると聞いている。ぜひとも高齢の方も対象にしていきたい。

→事務局：貴重なご意見ありがとうございます。障害があるということの不便さと、加齢による分かりにくさがあると思うので、幅を持たせてご意見を頂こうと思う。

→委員長：先程ご意見いただいた委員は問題ないか？

→委員：問題ない。必要な意見を聞いてまとめていただければと思う。

委員：製品の使用についての取り組みということで、現在も進みつつありますし、今後、国の方針としてデジタル化であるとか、あるいは無人化に伴うものの仕様に関する変化がおこっていくことが予想される。今現在、仕様のことで不便を感じていることを聞き取っていただけるということは

ありがたい。今後のことで不安に思っていることを聞いてほしい。タッチパネル化に特に不便を感じている。無人化に伴う変化でも利用が困難になる事例も聞いているので、店の仕様は製品の仕様とは違うかもしれないが、具体的な事例も色々聞いていただければと思う。

→事務局：デジタル化・無人化に関してもしっかり考えていきたいと考えている。

2) 各事業計画（案）について

① 人間工学－アクセシブルデザイン－第2部：色弱とロービジョンのための色の組合せ

事務局より説明：7月にやっと会議を開催。DISの登録済みとなった。

「defective colour vision」を「people with colour deficiency」に変更

② 人間工学－アクセシブルデザイン－第3部：多様な色覚の人々のための色の組合せ

事務局より説明：パート2のDISが終わった後に、NPとして提出する予定

③ 人間工学－アクセシブルデザイン－消費生活用製品の操作性

事務局より説明：前回の委員会の後、無事に発行された。

④ ISO/IEC ガイド71:2014適用のためのガイダンス－第2部：人間工学的デザイン配慮事項9/28・29でTC159の総会があり、そこで話をしたが、ヨーロッパとの共同プロジェクトになっている。発行する期限としては来年の9月だが、CENとのプロジェクトになると1年くらいかかるため、一度取り下げて、再度申請してほしいということだったため、一度取り下げて、12月の末に提案する予定。

附属書というのがあって、そこに良い事例を出そうということで今、集めている。ドイツの方からこのようにしたほうが良いという意見があった。

日本で言うと、シャンプーのギザギザ、お酒を表す点字など、いくつか載せている。イメージがしやすくなるように載せている。できるだけ事例を集めたいと思っている。良い事例があればお知らせいただきたい。

⑤ 人間工学－アクセシブルデザイン－視標と表示における見やすい視覚的コントラスト(仮称)

これから提案で、現在、実験しているものになる。

2回目の委員会で実験の進み具合等はお知らせしたいと考えている。

委員：コントラストの規格ですが、実験を進めて、規格が作られていくものと思うが、その途中で適宜、私たちの方からコメント等を出す機会があるか聞きたい。

事務局：この委員会で原案を出して、すぐに投票にとはならず、データが揃ったら、このような感じで規格として出すというのを皆様に見ていただいて、ご意見を頂ければと思っているがいかがか。

委員：承知した。

委員：今回の規格の適応範囲がどれくらいのもが対象になるのかというのが、消費生活用製品も対象になるのか、今、大体想定されているものが建築物の中の、例えば案内表示だったりとか、階段とのコントラスト等、他の手すり、壁面についている手すりだったり分かるか、そういうことかと思っていたが、どこまでを考えて実験をされているのかお伺いしたい。

事務局：当初は建築物のようなところが、コントラストが上がると歩くときや移動に役に立つということで考えていた。コントラストということで考えると、建築物だけに限らず、物の上にストライプのようなものがあったりすると、大きさの問題があるが、ある程度、影響する場合を除けば、それほど違いがないので、看板視標製品ラベルなどの製品における視覚表示物と、手すりなどの建築物における視覚表示物の両方で今は考えようとしています。

委員：やはり消費生活用製品だと小さいものもあるので、その中のコントラストまで波及するのか、家電製品だったり、我々の工業会でいうところの住宅設備機器のトイレ周りの機器にまで適応されるのか。例えば便器が、視覚障害者の方だと、形が白っぽくて、壁も白っぽいからわかりにくいということであれば、今回のようなものだと参考にするということが大きい物は参考にできるかもしれないが、リモコンのような文字まで波及するのか、ボタンなのかといったところの適応範囲がどれくらいになるかによっても製品への影響もとても大きいのでそこはまた検討というか、気にしつつ、皆様、委員の方のご意見も伺いながら決めていただければと思う。

事務局：今の実験では結構細い線などのデータも取ってはいるが、とても細かいものというのは想定していない。こちらの方である程度データを取って、視野角度から想定される大きさということが見えてくるので、その辺りでまた皆様にお話をして考えたいと思う。

事務局より実験結果の説明。

委員：コントラストの被験者となるロービジョンの方々ですが、眼の状態によって幅が大きいと結果に影響を及ぼすとおもうが、あまり影響を及ぼさないように選定したほうが良いのではないかと思うがいかがか。

事務局：あまり選定すると、ロービジョンの中で偏りが出るため、特に選定せず来ていただいている。

来ていただいた方には目の状態を聞いて、結果に反映できるようにしている。

委員：資料1-8に関して、先程、「defective colour vision」を「people with colour deficiency」に変更したというお話があったが、この資料の1-8に関して3-1に「defective colour vision」という言葉が入っているがこのままでいいのか。3-3の所にもあるがこのあたりの変更はどうなっているのか。

事務局：これから見直すところ。ご指摘いただきありがとうございます。

委員：今の英単語の選定に関して、何となく感じるが、国連の障害者権利条約の社会モデルの表現の英単語を使うようにし、医学モデルの英単語はできるだけ少なくしていこうというような流れがISOにもあるのではないかというような気がするが、そのようなことはあるか。

事務局：この話をTC159でする時に、あまり人というくくりで見るのではなく、症状とか状態とい

う形でわけてくださいと言われている。視覚や聴覚に対する配慮で、視覚障害者や聴覚障害者ではなく、視覚といった症状に対する配慮にするように言われている。

委員：結構似ているように感じる。質問をしてよかった。方向は似ているように感じた。

事務局：社会モデルの表現ということ存じ上げなかったため、確認を試みる。

(2) 検討事項

1) 各事業の内容及び令和5年度の計画について

上記でやったので特になし

2) その他

特になし

6. 挨拶：閉会に際し、経済産業省国際標準課のご担当者よりご挨拶をいただいた。

7. 配布資料

TC159AD_R5_資料 1-1：R5 年度第 1 回 TC159AD 委員会議事次第

TC159AD_R5_資料 1-2：TC159AD 委員会委員名簿(R5 年度)

TC159AD_R5_資料 1-3：R4 年度第 2 回 TC159AD 委員会議事録（案）

TC159AD_R5_資料 1-4：AD プロジェクト R5 年度実施計画書

TC159AD_R5_資料 1-5：TC159AD_進捗状況と R5 年度計画

TC159AD_R5_資料 1-6：ISO24505-2_原案

TC159AD_R5_資料 1-7：ISO24505-2_コメント

TC159AD_R5_資料 1-8：ISO24505-3_220117_WD

TC159AD_R5_資料 1-9：ISO_TR22411-2_Annex A_Good Practice（作成中）

TC159AD_R5_資料 1-10：見やすいコントラスト規格案及びコントラスト評価実験報告

附属資料 2. (2) 第2回 TC159AD 委員会議事録

1. 日時：令和6年1月31日（水） 14時～16時
2. 場所：オンライン会議システム（Webex）
3. 出席者：委員12名、関係者・事務局13名（合計25名）
4. 挨拶、出席委員・関係者紹介、委員長選出

会の冒頭に経済産業省医療・福祉機器産業室ご担当者よりご挨拶をいただいた。続いて出席委員、関係者の紹介を行ったのち、委員長選出を行った。事務局より委員長推薦があり、議場に諮ったところ出席委員全員をもって承認された。

5. 議事

(1) 報告事項

1) 令和5年度事業実施計画（全体）確認（資料）

①人間工学-アクセシブルデザイン-第2部:色弱とロービジョンのための色の組合せ

②人間工学-アクセシブルデザイン-第3部:多様な色覚の人々のための色の組合せ

事務局より説明。

特に質問等なし。

③ISO/IEC ガイド71:2014適用のためのガイダンス-第2部:人間工学的デザイン配慮事項
事務局より説明。

委員より書面コメント→附属書Aのアクセシビリティの事例集について、事例はまだ募集が続いているか？募集が続いていれば、数点ご紹介したいと考えている。

委員→グッドプラクティスの例示の数について、考えはあるか？

事務局→委員からも書面コメントがあったが、数については特に決めていない。様々な内容を、偏らずに載せたい。

委員→たくさんあると思うが、代表的なものが1、2例あればいい。今のものでも分かりやすく十分ではないかと思う。

事務局→認知的な配慮の事例が実は少ない。まだあまりない事例を紹介することができれば加えたいと考えている。

委員長→グッドプラクティスの事例で何か良いものがあればご提案をいただければと思う。

④人間工学-アクセシブルデザイン-視標と表示における見やすい視覚的コントラスト

事務局より説明。

委員より書面コメント→実験協力者が必要な場合、知らせてほしい。できる範囲で声をかける。

委員→ISO21542の方にアクセシブルデザインの規格にコントラストが載っていて、2021年にマイケルソンのコントラストに改訂された。また視覚障害者の誘導ブロックの規格23599もある。適応範囲が重複しないように検討していただきたい。実験の内容について、トイレのリモコンのような小さい製品の規格でも適用可能か、その場合も同じような結果になるのか、どういったものに適用できるのか。

事務局→IS021542はIS0方から産総研に問い合わせがあり、こちらの持っているデータを渡したのでおそらく大きな違いはない。

委員→第一回の委員会で、マイケルソンコントラスト値が0.4-0.5以上だったが、21542ではlarge surface(床、壁、ドア等)は0.3以上で明るい方の反射率Yは40%以上、特に危険な場合には0.6以上かつ明るい方の反射率が0.5以上必要になるという規定だったと思う。そのあたりの整合性も気になる。

事務局→IS021542の内容については確認する。

委員→誘導ブロックの方は日本発信のJISや、IS0で、そのデータは視覚障害者や色覚異常の方も実験しているデータだと思うが、コントラスト値0.3以上だった。今回はだいぶ値が高くなっていると思うので、気になっている。

事務局→数値はパターンによって異なる。基本は見やすさが3以上あるところで例えば0.5にしているものもあるが、高すぎると製品が作りにくいという場合もあり、報知光のIS0時はパーセンタイル値などを計算し最終的に数値を決めた。このような作業も今後必要かと思っている。

この規格ではパターンごとに適切な数値を決め、特定の製品や環境に限定せず、純粋なコントラストの見やすさでの規格としたいと思っている。

建築や誘導ブロックは特定の製品の大きさを想定しての見やすさなので、本規格の目的とは異なる。

委員→この規格は高齢者も含むので2つコメントがある。

1つめは、高齢者で認知機能が低下しているということであれば、赤色の便座がよいなどの研究が、アメリカやデンマークで研究が進んでいる。

高齢者で30名位実験をしたとのことだが、障害者と比べて、認知機能の低下や緑内障の影響について、この評価試験の中でどれくらい考慮しているのか。

2つめは、当協会でもニーズ・シーズマッチング交流会というのをやっていて、リウマチの人は、ペットボトルのキャップを締めることができずに困っている。ホットコーヒーの缶も開けられない。そのためメーカーで考えてもらえないかと言われている。水筒みたいな形のものにペットボトルを入れて、自動的に締めてくれるというニッチなものがあるが、アクセシブルデザインとは、高齢化に伴って開けづらい人に対して、補助具で対応するのか、デザイン的なもので対応するのか、どのようにお考えか伺いたい。

事務局→1つめのご質問に関して。実験に参加した高齢者は、医学的検査は行っていないが、現在医学的な治療をしていないという条件で参加していただいている。ロービジョンの被験者群には緑内障やその他の症状がある方が含まれている。高齢者では主に加齢効果に関しての影響を調べている。

色の判断自体は、コントラスト(明暗)ある時に色の差の効果がどれくらい影響するのかを調べている。一方、24505-2の方は、区別がしやすい色かどうかを示しており、既に実験済みでそのデータから規格を作成している。人を特定しない色の区別に関しては24505-3の方で見て頂きたい。

2つ目のご質問に対して、デザイン配慮事項として考えているが、ガイド71やTR22422-2では大きな方針として福祉用具などと一緒に使えるようにすることを推奨している。支援体制には言及し

ていないが、様々な福祉用具を使っている人もそれを使いながら使用できるデザインが望ましいとしている。

委員→ドアノブや鍵など、ちょっとした自助具があれば操作できるそのもの自体のデザインで解決するものが結構ある。その辺がどうかと思った。

委員→実験をなさるときの明るさの条件はどこかに書いているか？

事務局→明所視の範囲でやっている。コントラストの基礎的な実験の方では、サイン波形によるコントラスト感度を測定し、その時は薄明視という暗い条件でも行っているの、そのデータもそういう意味では参考までに検討したい。

色については、色の組み合わせを示す24505のシリーズで薄明視条件でも行っている。

委員→明るさの条件によって見え方は変わってくるので、どういう条件下でなさったのか記載をして頂きたい。

事務局→委員からの書面コメントで、震災時や電力需要における停電や計画停電、政府等の要請で公共空間の照明が落とされることが増えてきているとあり、少ない照明下でもコントラストそのもので見分けられるようなことも今後の課題として考えていく必要がある。事業者サイドは一部の利用者の不便さよりも政府の要請を優先するため、なかなか理解を得られないという事情もある、というご意見を頂いている。委員のご指摘はこうした事情を踏まえてのご指摘かと思う。暗い条件については今申し上げた参考データもあるのでどう言及するかについては今後検討させて頂きたい。

(2) 検討事項

1) 各事業の内容の審議と承認について

上記で説明したため、今後の作業スケジュール等を事務局より説明。

委員より書面コメント→人間工学の標準化ワークショップでは、どんな内容を予定しているのか、差し支えない範囲でご教示いただきたい。

事務局→こちらとしてもまだ全貌はわからないため、分かり次第お伝えしていきたい。

委員→他国からの提案がないというのはどういうことなのかと思った。日本が進んでいるのかと思っただけか。

事務局→共用品さんが進めているものも含め日本からの提案が圧倒的に多い。以前は韓国等からもあったが、データを取るのが難しいようである。またドイツはアクセシビリティの関心が高く、規格を出すとコメントは多く出してくるが、自分から提案はしない。今回のTR22411-2もドイツと共同でやることになったが、ドイツ側の方が非常に進みが遅い。日本以外の国は関心は高いが、自ら提案するまでいかないのが現状。

事務局②→今の説明と同じと認識している。

委員→この会議に出席して、すごく意義があると常々感じている。色々な企業も参加されていて、実際に活用されていることも嬉しく思う。ただ、もっと一般の人にもこの中身を周知していただけないだろう

うか。とてももったいないと思っている。専門家だけが知っているのではなく、この専門的な知識をもっと一般の方々にも知らせていく、例えばコントラストの問題でも、この委員会が携わって決定しているということをどこかに表記されているということがあるとよい。PRの仕方として何か考えていただきたい。

事務局→委員からも以前同様のご指摘があった。どのようなところに周知すればよいなどの情報をお持ちの方は委員の中にいらっしゃるだろうか。

委員→テレビのCMでは会社の取り組みにアピールが多い。マスコミに伝えて放送するなどがあればよいのではないか。

事務局→検討する。

事務局③→委員の言われていることはとても大きな課題だと思っている。シャンプーとリンスのギザギザなどは1社ではなく、多くの企業が取り組んでおり1社のCMで行うことは難しい。その取り組みは小学4年の教科書に載っている。またリカちゃん人形のお風呂セットのシャンプーにギザギザや、冷蔵庫セットの牛乳パックに小さな刻みがついており、子供から大人の世代に伝わっている。今後は子供だけに頼るのではなく、色々なクリエイター（CM、教科書、映画を作る人）の力を借りるためのツールを今、作ろうとしているところ。委員の言うことはもっともだと思う。

委員長→世の中に広めていただければと思っている。

委員→色々パソコンの調子が悪くて申し訳ない。色のコントラストとか組合せについて、子供の時から知っていればいいと思った。福祉の講座として学ぶよりも、図工とか美術とかで色の組合せを考えると、見やすいものはどういうものか、福祉の講座として学ぶよりも、図工や美術などで色の組合せを考えると、見やすいものはどういうものか、コントラストを考えるなどについて学ぶ機会があれば、子供たちは自然と知識、感覚として身につくのではないかと思った。

委員長→デザインの学習という観点を標準文書に入れることは難しいが、大切なことだと思う。

2) その他

今回は特になし

6. 挨拶：閉会に際し、経済産業省国際標準課のご担当者よりご挨拶をいただいた。

7. 配布資料

- TC159AD_R5_資料 2-1：R5 年度第 1 回 TC159AD 委員会議事次第
- TC159AD_R5_資料 2-2：TC159AD 委員会委員名簿(R5 年度)
- TC159AD_R5_資料 2-3：R5 年度第 1 回 TC159AD 委員会議事録（案）
- TC159AD_R5_資料 2-4：AD プロジェクト 実施計画書
- TC159AD_R5_資料 2-5：AD プロジェクト R5 年度進捗状況
- TC159AD_R5_資料 2-6：24505-2 DIS 投票結果 ISO からのコメント
- TC159AD_R5_資料 2-7：24505-3 原案最終版
- TC159AD_R5_資料 2-8：24505-3 翻訳（参考）
- TC159AD_R5_資料 2-9：TR22411-2 原案

TC159AD_R5_資料 2-10 : TR22411-2 Annex 翻訳 (参考) 報告

TC159AD_R5_資料 2-11 : コントラスト評価実験報告

附属資料 3. (1) 第1回 TC173 国内検討委員会議事録

1. 日 時：2023（令和5）年10月27日（金）14時～14時40分
2. 場 所：共用品推進機構 会議室（オンライン会議システム Webex）
3. 出席者：委員長・委員14名、関係者・事務局10名（合計24名）
4. 挨拶、出席委員・関係者紹介、委員長選出

出席委員・関係者の紹介を行った。続いて経産省医福室ご担当者、国際標準課ご担当者よりご挨拶いただいた。続いて出席委員、関係者の紹介を行ったのち、委員長選出を行った。事務局より委員長を推薦する旨の案が出され、議場に諮ったところ出席委員全員をもって承認された。

5. 議事

(1) 報告・検討事項

1) 令和5年度全体事業計画について

事務局が、TC173/SC7 資料1-2を基に説明を行った。

2) 各事業報告・検討事項について

① ISO/DIS 6273 福祉機器—福祉機器およびサービスに対する感覚機能に障害のある人のユーザーニーズ調査におけるアクセシビリティのガイドライン

事務局が、TC173/SC7 資料1-4、参考資料1から参考資料4を基に説明・報告を行った。

委員：感覚障害という言葉は初めて聞いたが国際的に使われている言葉か。

→事務局：機械翻訳ソフトを使用して日本語訳すると「感覚障害」という言葉になるが、感覚機能に障害のある人という意味で感覚障害という言葉を使っている。

委員：承知した。

本件については説明・報告のとおりで承認された。

(2) 次回委員会

2024（令和6）年1月頃開催予定。

7. 配布資料

TC173/SC7 資料1-1：令和5年度第1回 TC173/SC7 国内検討委員会 議事次第

TC173/SC7 資料1-2：令和5年度実施計画書概要

TC173/SC7 資料1-3：TC173/SC7 国内検討委員会名簿

TC173/SC7 資料1-4：ISO/DIS 6273 福祉機器—福祉機器およびサービスに対する感覚機能に障害のある人のユーザーニーズ調査におけるアクセシビリティのガイドライン

参考資料1：ISO/TC 173/SC7/WG7 進捗状況等

参考資料2：ISO/TC 173/SC7 で制定、または作成中の規格の現状

参考資料3：ISO 規格の制定手順等（別添）

参考資料4：機械翻訳 ISO/DIS 6273:2022(E)（別添）

注記：第2回 TC173 国内検討委員会は、審議事項がないため、メールにて以下の4点について進捗等報告を行った。（令和6年1月26日付）

- (1) 現在審議中の ISO 6273 について
- (2) 定期見直しについて

(3) SC7 次期プロジェクトの募集

(4) 新 SC7 への新たな P メンバー登録

一般財団法人日本規格協会からの再委託で実施したものの成果である。

本件についてのお問合せ先

〒305-8566 茨城県つくば市東1-1-1

TEL: 029-861-6750

国立研究開発法人 産業技術総合研究所

(人間情報インタラクション研究部門 伊藤納奈)

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-5-4

TEL: 03-5280-0020 FAX: 03-5280-0020

公益財団法人 共用品推進機構

業務部調査研究課

成果報告書の無断転載は固く禁止致します。